

## 催事報告

### 特別おはなし会（春の子ども読書フェスティバル）

日時 平成30年5月9日（水）午後3時～3時45分

参加人数 計14人（子ども8人 大人6人）

会場 榴岡図書館おはなしのへや

通常のおはなし会の拡大版として、時間を延長して実施しました。大型絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び、さらに「かぶとむし」の絵かき歌や「くいしんぼうのゴリラ」のエプロンシアターなど「楽しい」をテーマに行い、おみやげとしていぬの折り紙をプレゼントしました。初めての子どもも笑顔で参加してくれて、ほほえましかったです。



### 榴岡図書館の日

#### <展示>

期間 平成30年4月28日（土）～平成30年5月13日（日）

- 展示内容
- ・平成29年度に実施した榴岡図書館事業の紹介
  - ・仙台市歴史民俗資料館のポスター展示
  - ・仙台駅東口界限活性化のため活動されている仙台駅東エリアマネジメント協議会、駅東ガイドボランティアのパネル展示
  - ・読書の木 花いっぱいになぁ～れ

展示



#### <消しゴムはんこでオリジナルグッズをつくろう！>

日時 平成30年4月30日（月）午後2時～3時

参加人数 20人

内容 図書館で用意した紙袋やポストカードと図書館スタッフ作成の消しゴムはんこを用意しました。参加者の方には、好きな組み合わせで消しゴムはんこを紙袋やポストカードに押しつけていただき、オリジナルグッズを作成していただきました。

ワークショップ



榴岡図書館が開館した4月30日を記念し、パルシティ仙台1F展示フロアを会場に、展示やワークショップ<消しゴムはんこでオリジナルグッズをつくろう！>を行いました。今回も仙台駅東口界限で活動されている団体の方々にもご協力いただき、さらに充実した展示内容となりました。ワークショップは毎回好評で、参加された方々からも「楽しかった」とのお言葉をいただきました。地域の皆さまに親しまれ、愛される図書館を目指して、スタッフ一同取り組んでまいりますので、今後とも榴岡図書館をよろしく願います。

発行：仙台市榴岡図書館

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-1-8 パルシティ仙台 4F ☎295-0880(代表)

# 榴岡図書館だより

第13号  
平成30年9月1日

## My Favorite Book

### 『石川啄木 一握の砂』



今年（平成30年）は、明治元年から150年という節目の年です。この時代は、様々な分野で海外の影響を受け、大きな変化、進展がありました。もちろん文学においてもその影響を受けた多くの作家が誕生しています。

私が思い浮かべる一人に、石川啄木がいます。彼の代表的歌集『一握の砂』には、故郷の岩手渋民村や盛岡、北海道の町の名（函館、小樽、倶知安、釧路など）が歌われているものがあります。「啄木が過ごした街、歌った場所を見てみたい」と、高校時代にこれらの地を訪れたこともありましたが、貧困や病などの現実のため、思いどおりにならないかなしみや、郷愁の色濃い作品が多い啄木ですが、そこには、いつの時代の若者も持つ、自分の未来への夢や希望、それにむかって進んで行きたいと思う啄木のあこがれ、情熱も感じ取ることができます。

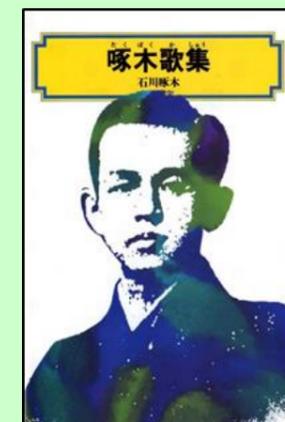
また、『一握の砂』とは別に、数十年前、啄木とその妻節子を描いた作品がドラマ化、テレビ放映されたものが印象深く、忘れられずにいました。なんとか作品名（おそらく『石川節子——愛の永遠を信じたく候』 沢地 久枝／著 講談社 1981年では？）を思い出したので、読み返してみたいと思います。二人の壮絶な生き様（作品は節子を中心）が描かれています。

明治という新しい時代に生まれた、日本の作家や作品の代表として、みなさんは誰を思い浮かべるのでしょうか。今はもう私の啄木熱もすっかり冷め、彼の生涯×2以上の時間を生きてきたことに愕然とし、思わず‘ちつと手を見’てしまうのでした。

仙台市榴岡図書館 樋浦 春美

#### <関連資料>

- ・『石川節子 愛の永遠を信じたく候』 沢地 久枝／著 講談社 1981
- ・『美しい日本の詩歌 夢 啄木・中也・道造詞華集』 石川 啄木／[ほか]著 岩崎書店 1996
- ・『別冊太陽 石川啄木 漂泊の詩人、没後100年記念』 平凡社 2012



『偕成社文庫 啄木歌集』  
石川 啄木／著  
偕成社 1980